

日本庄延工業 営業益2倍

22年7月期 アルミ高が寄与

日本庄延工業（本社：滋賀県東近江市、磯部正信社長）の2022年7月期の業績は、売上高が前期比39%増の4億4000万円、営業利益は倍の2億5000万円だった。製品販売価格の指標となるアルミ地金価格が上げ基調で推移したほか、コンデンサーやハードディスク関連など半導体分野からの需要が堅調だった。

リサイクル率40%達成

経常利益は7%増の2億2000万円。生産実績は7%増の6500ト、販売量は7%増の6000トだった。

販売量の半数以上を占める自動車分野からの引き合いは、自動車メーカーによる減産の影響で伸び悩んだが、消火器関連は例年並みだった。

今期（23年7月期）の業績見通しは、売上高が5%増の43億円とするが、営業利益は27%減の1億5000万円とする。電気やガスなどエネルギーや輸送にかかるコストが高騰

しているほか、需要については「前期に好調だったハードディスク関連の引き合いが急速に冷えてきている。自動車も不透明で先が読めない」（磯部社長）。

ロールマシンの値上げは、前期に一度実施しているが、エネルギーコストの高騰が止まらないため、需要家には今期も追加の値上げを要請する。

設備投資は、前期に排水処理設備の新設やプレス加工ラインへの排気・集じん機の設置、熱間ラインの更新、そのほかの更新や修繕な

どで約2億円を投じて

おり、今期は1600トプレス機の後工程の自動化や打ち抜き（ブランク）ラインの

増設、省エネに対応したトランスへの更新などを計画する。

ただ、導入予定の設備が部品不足により納期が未定のため設置時期は不確定とする。そのほか、建屋屋上への太陽光発電パネルの設

同社は、生産工程でのリサイクル率向上にも注力、昨年度の生産量に占めるスクラップの使用比率は過去最高の40%を達成した。自社による市中スクラップ買い付けをはじめ、母体となる川島グループの集荷ネットワークや低品位スクラップの格上げ技術などを活用し、地球環境に配慮した操業体制を敷く。SDGsでスクラップの活用が注目されており、集荷競争が年々激しくなっているが、引き続きリサイクル率の向上に努めたい（同）